

生きづらさを悩まないで

聖光高通信制、独自の生徒支援で注目



毎週土曜に行われるスクーリング。高校卒業資格の取得を目指し、自分たちのペースで学校生活に向き合っている。光市光井

自由認め負担感減・成功体験大切に

聖光高校（光市光井）通信制課程の新生生が本年度秋までに40人に上り、開設以来最多となった。国が10月に発表した調査によると、小中学校での不登校児童生徒数は過去最多を更新。生徒のペースに応じた通信制独自の体制で、友人関係や勉強のつまずきなど、生きづらさを抱える子どもたちの受け皿になっている。生徒と日々向き合う教員たちは「勇気を出して通信制を選んでくれた生徒ばかり。ここが『最後のとりで』との自覚をもって向き合う」と話している。

土曜の昼前、教室には白板に向かって鉛筆を動かす生徒たちの姿があった。服装も髪の毛の色もさまざま。「法律に違反しない限りは自由にさせているんですよ」と坂本憲次教頭が教えてくれた。授業の終わりに、生徒は教員のもとへ出てプリントを提出。教員は「授業の内容がきちんと理解できているか、出席確認も兼ねてチェックしている」と話す。プリントの右側にはQRコードがあり、授業で使った教材を自宅でも復習できるようにしているという。

昼休憩になると、生徒は外庭で弁当を広げたり、携帯電話を触ったり…。校外に出て食事をすることも許可している。教室で長く過ごすのを負担に感じる子どもへの配慮だ。

同校通信制は、2003年に開設。現在、152人が在籍している。春と秋に新生生を迎え入れ、本年度は春に39人、秋に1人が入学。多くが今春に中学校を卒業した生徒だった。例年、新生生は10〜20人台で推移していたが、昨年度は中学校や保護者からの問い合わせが多かったという。

毎週土曜に「スクーリング」と呼ばれる登校日を設定し、授業や実習を実施。その他の日は課題をこなし、レポートを提出してもらう。学習内容が理解できなかったり、進路の相談があったりする場合、平日登校にも対応。一定の条件を満たせば、全日制への転籍も認めている。

「たとえ（スクーリングの）休みが続いていても、いつもと変わらない接し方を心がけている」。上田勝宣教諭は明かす。「学校に行けなかった自分が悪いと思ってしまう。彼らには次に登校するためのステップと考えてほしいから」と続ける。

本年度入学した女子生徒（15）も不登校を経験した。「体をつかまれ学校に連れて行かれたこともある。それ以来、先生が怖くなった」と吐露。「毎日登校するのは難しいと思っていたけど、ここなら自分のペースでできる。将来は誰かの心のよりどころになれるような仕事に就きたい」と前向きに話す。

全日制と同じように担任

制を設けてはいるものの、教員間で情報を共有。パソコンで気になる点などを各教員で閲覧できるようにしているという。上田教諭は「通信制に来て『できた』という成功体験は次の社会生活にきつとつながる。生徒を預かった以上は高校卒業の資格取得を保証してあげたい」と話している。

（竹久祐樹）

